【様式２－２】

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
## 実施方法等

【類型Ⅰ】

### １．実践校について

| 実践校名 | ちばだいがくきょういくがくぶふぞくしょうがっこう<br>千葉大学教育学部附属小学校 | |
|---|---|---|
| 学科名 | 児童・生徒数 | 学級数 |
| | 639　名 | 19 学級<br>（うち帰国学級１学級含む） |

### ２．実践研究の対象

第４学年　（　104　名）　　３学級
第５学年　（　105　名）　　３学級

### ３．実践研究の実施経過

４月　　大学における防災組織の調査や千葉市・各区における避難所運営委員会の調査・取材

５月　　プログラム・指導案等の検討（教科部会・プログラム実行委員会）
　　・評価方法の検討（教科部会・プログラム実行委員会）
　　・関係者への授業協力依頼

８月　　関係者との打ち合わせ・単元計画・指導案の立案
　　※計画では，避難所運営委員会の開催を予定していたが，コロナウィルス感染拡大により，オンライン交流会という形にすることとした。

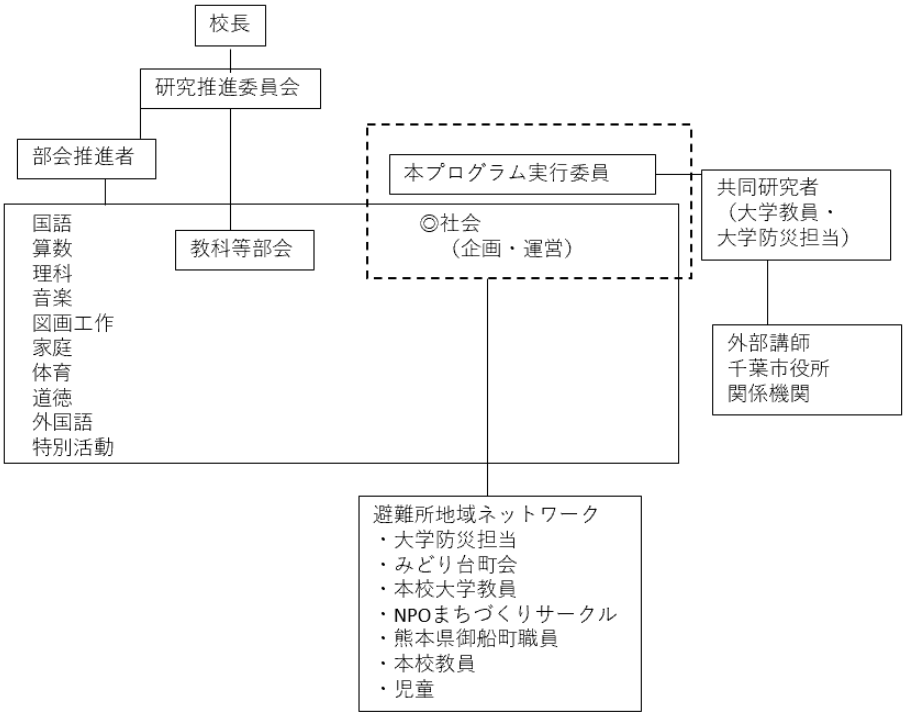
９～11 月　第４学年単元計画・指導案等の決定（教科部会・学年部会）授業実践・第５学年本再検討

12 月　　第４学年の事後検討，第５学年プログラムの再検討
　　※教育実習が延期になるなど，コロナウィルス感染拡大により，学生の入構が制限されたため，授業記録ならびにアンケートの補助員を動員することはできなかった。

１月　　第５学年授業実践，第１年次のまとめ，冊子作成開始

２～３月　第１年次のまとめ・来年度への課題

## ４．実践研究の実施体制




## ５．教育委員会等として取り組んだ内容

「国立大学法人千葉大学災害対策規程」第 11 条に次のような記述がある。

「第１項　学長は，地方公共団体からあらかじめ近隣の住民の緊急避難場所として指定された施設の提供の要請があったときは，これを提供するものとする。第２項では，学長は，前項のほか，地方公共団体から緊急避難場所として施設の提供の要請があったときは，可能な限り当該施設を提供するものとする。第３項では，部局長は，近隣の住民が緊急避難してきた場合には，一時的に当該部局の適当な施設を緊急避難場所として提供することができる。第 4 項では，前項により緊急避難場所として提供した場合には，部局長は直ちに学長に報告し，指示を仰ぐものとする。」

この規定によれば，千葉大学は，災害時には近隣地域住民の緊急避難場所として施設を提供するとともに，地域住民の受け入れを行うことになる。その際，子どもたちは地域住民とともに避難活動を行うことになる。

本プログラムは「防災教育」を１つのキーワードとし，大学とその周辺に住む大人と児童をつなげて，大学構内や通学路で起こり得る地震や豪雨といった災害時の課題を教材として開発するものである。また，その教材は，児童が住む行政区での災害時の課題解決にもつながるものと考える。そのため，千葉大学との連携を図り，プログラムの開発にあたった。

【様式２－３】

# 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

【類型Ⅰ】

**実践校名:千葉大学教育学部附属小学校**

研究主題

## 社会とつながる児童の育成
## ～ICT を活用して地域とのネットワークづくりを実現する防災教育～

主題設定の理由

本プログラムに取り組むにあたり，社会科部で議論したことは，児童にとっての「実社会との接点」をどこに求めるべきか，ということであった。議論の末，それを，「地域社会に生きる大人」とすることとした。児童にとって地域の大人との関わりは，コミュニケーション能力や共生感を育むことに最も適している。また，地域にあいさつができる大人がいる，知っている大人がいるという安心感は，児童に地域への愛着を持たせることにもつながる。しかし，現代社会では，都市化や家族の変容，ライフスタイルの変化などによって，児童が地域活動に参加したり，大人と直接かかわったりする経験は減少の一途をたどっている。特に本校は，広域学区となっており，学区においてもそれぞれの移住地においても，地域の大人と関わることは難しい。このような，地域社会との関係の希薄化は，本校に限ったことではなく，都市部に住む児童なら同様に持つ課題であろう。本校のように，学校所在地の周辺地域と自らが居住する２つの身近な地域を持つ児童が，自分の学校のまわりや生活する地域がどのような地域なのか，どのような人々が共に生活しているのか，またその人々と自分はどのような関係性（つながり）があるのかを相対的に認識した上で，自分はどのように生きていくべきか，を深く，丁寧に学習していけるようなプログラムが，求められているのではないか。

本プログラムでは，自分やみんなの命にかかわる「防災教育」を１つのキーワードとし，第４・５学年の２学年を段階的につなげるものとして設定した。新学習指導要領では，第４学年に自然災害を学ぶ単元が新設された。千葉市は，東日本大震災で液状化の被害が，また，近年には豪雨の被害などがあった。しかし，多くの児童は，自然災害の経験はない。そこで，本実践では，千葉市の防災基本計画にも教訓的に位置づく，熊本地震を教材とし，ICT を活用して，被災地の大人との交流も試みることとした。被災地の大人にその経験を学びながら，地域の大人と共に協働する学習の経験は，自然災害や地域社会を知ることにとどまらず，児童のよりよい社会を形成する力を育むことにも大いに寄与するであろう。あわせて，本プログラムを通して，子どもたちは，「自分も地域の一員である」という自覚や地域に対する帰属意識を持ち，様々な社会の課題に対して「みんなが幸せな地域社会とは？」と問い続ける一歩となると考える。

児童と大人をつなぐ手立てとして，防災における課題を共に考えていくネットワークづ

くりの場として，場所を選ばず，多くの大人と児童がつながることができる ICT の有効な活用法についても考えた。本校においても，今年度からは，端末が１人１台支給された。これまで培ってきたオンライン学習のノウハウを活用し，GIGA スクール構想の一助にもなれば，と考え，本主題を設定した。

**概要**

○ICT を活用し，熊本地震の経験を教訓的に学びながら，自然災害における「避難所」の課題を児童と地域の大人が協働で考える地域ネットワークづくりを実現するプログラムの開発

**学習プログラムの主な内容**

① 自然災害について課題をもち，東日本大震災での千葉県の被害について調べる
【社会・４時間】

オンライン学習期間であったため，同期型と非同期型を組み合わせて，自然災害の種類や被害の概要をまとめたり，東日本大震災時の旭市の津波被害等を調べたりした。

② 災害時の関係機関のはたらきや，地域や千葉市の備えについて調べる
【社会・３時間】

災害時には，関係機関が協力して対応することや今後想定される災害に対し，地域や社会が様々な備えをしていることについて，千葉市防災担当のＯさんから話を聞いた。

③ 千葉市の防災基本計画にある熊本地震について調べる中で，災害時の避難所に課題意識をもつ 【総合・５時間】

今後想定される災害に対し，千葉市が熊本地震の経験を教訓的に学んでいることに着目し，熊本地震について調べる。

④ 地域の大人と協働し，附属小をよりよい避難所にするにはどうしたらよいか，考えしおりにまとめる 【総合・１０時間】

熊本地震での避難所生活に着目し，自分たちの学校が避難所になった時どうあればよいかを，熊本県御船町の職員さんや地域の方々と共に考えまとめる。

**学習プログラムの成果の概要**

○本プログラムに取り組んだことにより，第 4 学年「社会科学習における自然災害の学習を軸とした防災教育プログラム」を作成することができた。

○ICT 機器や一人一台端末のオンライングループウェアを最大限活用してプログラムに取り組んだことにより，資料や発表スライドの共有が容易になり，授業以外の時間にも進んで学習に取り組む姿が見られるなど，児童の IT スキルや情報活用能力の向上に寄与した。

○緊急時に様々な立場の人々が，身を寄せ共生する「避難所」を教材としてプログラムに取り組んだことで，児童は自分の学区地域に住む人に関心をもつとともに，その人たちについて多角的に考える力を育んだ。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（内容）

【類型Ⅰ】

**実践校名：千葉大学教育学部附属小学校**

【第４学年】

**学習活動①自然災害について課題をもち，東日本大震災での千葉県の被害について調べる**

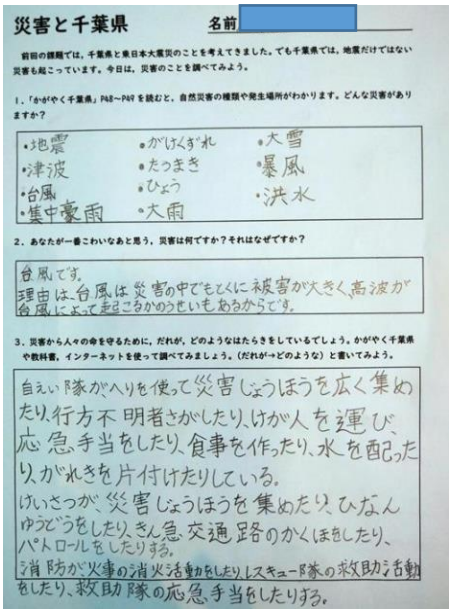
【社会「自然災害から人々を守る」オンライン授業３時間】

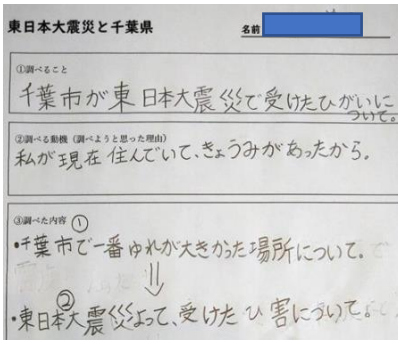
○自然災害の種類を確認し，自分たちが経験した自然災害について話し合う。
○第３学年で学習した地図記号を想起して，何の地図記号か予想する。

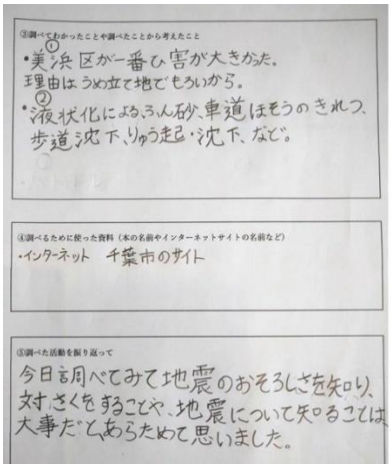
↑2019 年３月に制定された自然災害伝承碑

地理院地図 / GSI Maps｜国土地理院
https://maps.gsi.go.jp/#11/35.720421/140.646591/&base=std&ls=std%7Cdisaster_lore_all&disp=11&lcd=disaster_lore_all&vs=c0j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1&d=m

○千葉県旭市の津波被害の画像を見て話し合う。
○東日本大震災における千葉県内の被害状況について調べる。（オンライン課題）



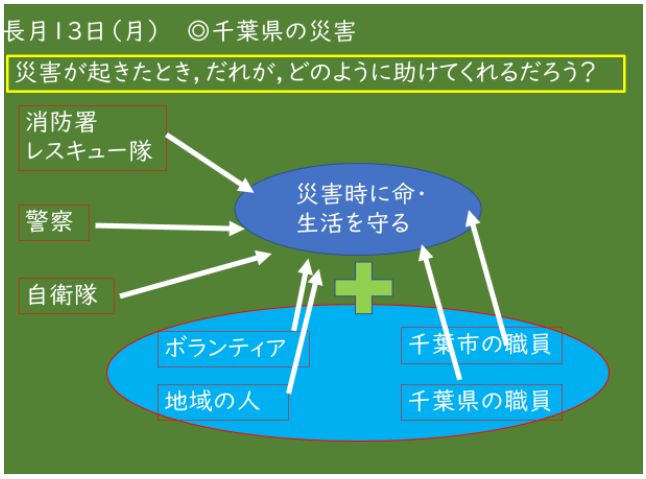



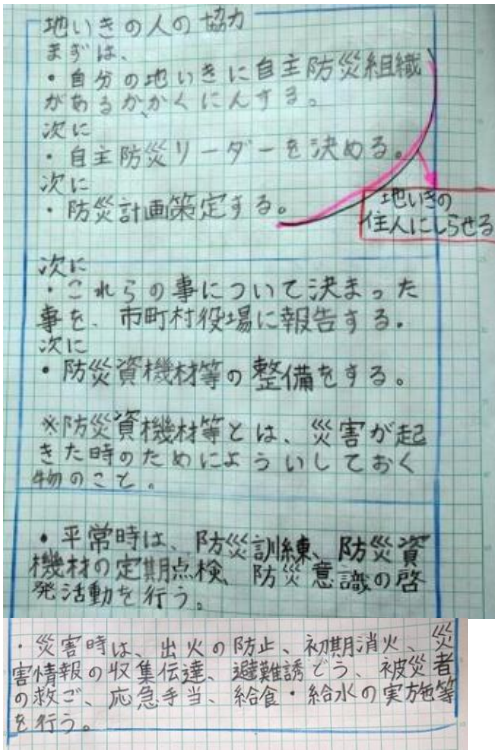
## 学習活動②　災害時の関係機関のはたらきや，地域や千葉市の備えについて調べる

【社会オンライン授業１時間・対面授業２時間】

○東日本大震災時の動画から，自然災害が起きた時の関係機関のはたらきについて学ぶ



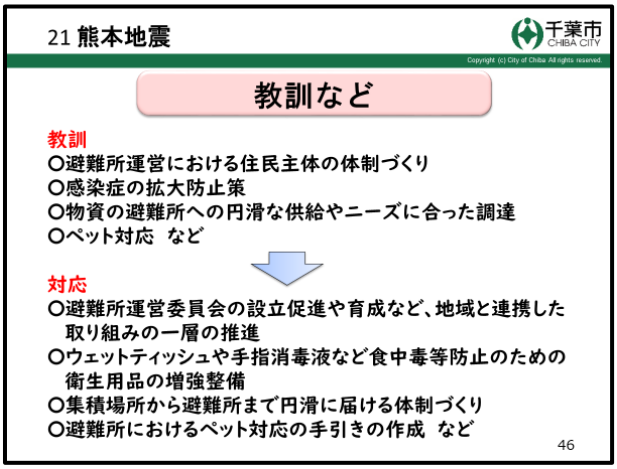

↑オンライン授業に使用したパワーポイントを利用した板書

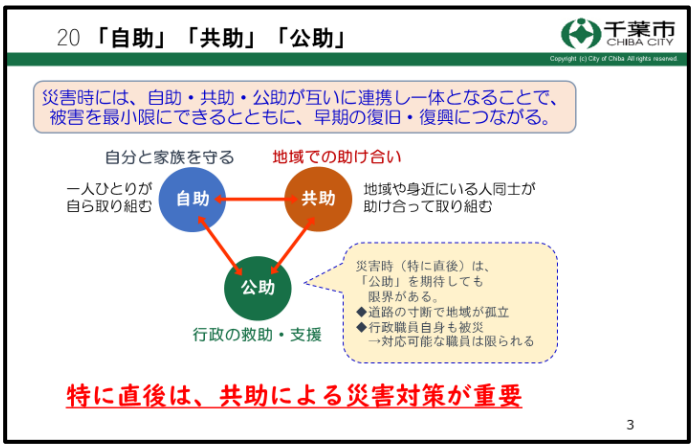



○災害時の備えについて，教科書や副読本を利用して調べる。
学校，地域，市役所の視点で災害への備えについて調べる。また，家庭での備えについて話し合う。特に，市役所では安心メール，ハザードマップの作製等の備えをしていることを調べたうえで，千葉市の防災基本計画に着目する。

○千葉市の防災基本計画に着目して，どのようなことが書かれているか予想する。

○千葉市危機管理部防災対策課Ｏさんによる出前講座（Zoom 利用）を行い，千葉市の防災について知る。




↑Zoom による出前講座の資料の一部

○Ｏさんの話から，災害時には，「自助・共助・公助」の連携が大切であること，熊本地震への職員派遣によって，防災基本計画に変更した箇所があったことなどを知る。

**学習活動③　千葉市の防災基本計画にある熊本地震について調べる中で，災害時の避難所に課題意識をもつ。**

【総合・５時間】

〇熊本地震を伝えるニュース動画から，どのような地震がおきたのか話し合う。

〇熊本地震の被害の概要から，震災関連死について知り，その原因について話し合う。ここでは，関連死の死因などには触れず，原因の第２位である避難所の生活に着目できるようにする。

〇震災関連死の原因の１つに，避難所での生活があることに着目し，どのような生活なのか，予想する。

〇熊本地震を経験したＴさんの避難所生活のインタビュー記事（別紙参照）を読み，避難所は何が大変かを話し合う。

〇話し合う中で，「誰にとって」何が，大変かに着目し，避難所を多角的に考える。

〇避難所には，長期滞在のできる「避難所」と，一時的に避難する「避難場所」があることを知る。「避難場所」では，避難者がいても，きまりによって避難者を移動させなくてはいけないことがあったことを知る。

〇千葉大学も避難場所であり，緊急時は避難所にはならないことを調べる。

〇住民の方たちの，千葉大学を緊急時の避難所にしてほしいという願いを知る。
願いを学校近くの町会の方や千葉大学まちづくりサークルＤｒｏｐｓさんの声として子どもたちに伝えた。

**学習活動④　地域の大人と協働し，附属小をよりよい避難所にするにはどうしたらよいか，考えしおりにまとめる。**

【総合・１０時間】

熊本県御船町の防災対策課の「山下さん」のお話。

質問のお答え。
Ｑトイレ・おふろ・食事・睡眠
Ａ体育館を主に使う。はじめはトイレの管理が難しい。
水が出ない！近くのプールから水をためておいて使っていた。
町から避難所にお弁当をもらっていた。お昼、仕事に行かれる方も多い。
朝早く、夜遅く、など色々いた。みんなが同じ時間に生活を送るということは難しかった。
Ｑ
地震が起こった直後には割り振りはできない。だから、空いているスペースに入っていった。
いろいろな視点で考えて割り振りすることが大切。（課題として大事）
昼まで寝ている方もいるから、道を作るスペースも作ったほうがいいと思った。
Ｑ学校の大切な場所は？
真夏や真冬などにはクーラーなどがなく、温度調節ができない。だから、教室を開けることは大切。
Ｑ車で生活する人
かなりの数の方が車で避難していた。車の中で数時間過ごしていた。
校庭に出る車もあった。ご飯の時間になったら、中へ
Ｑ動物
嫌いな方もいるし、アレルギーの人もいる。
だから専用の避難所を作り、分けた。
Ｑせんたくの話。
断水していたところもあった。いろいろなところに洗濯機を置いてもらった。干す場所は体育かん。
全員が洗っていることではなく、人それぞれ
Ｑコロナの感染症の状態
避難所は制限がされる。例１００－５０にするなど。
車で避難するのもあり。
Ｑ病気やケガの状態
町には保健師という人もいて、応援要請して救護所というのを作った。だが制限はある。
Ｑ自身の時の天候
ちょっとした雨はあった。
Ｑ避難所の生活での死者の方々への対応。
定期的にそうならないように健康チェックなどをしていた。
Ｑ避難所に入る優先順位
それはない。ただ、障害がある方や、動けない方々など先にしていた。

↑児童が書いたメモ書きの一部

↑Zoom での交流会のようす

○避難所に対する疑問や課題について，熊本地震で対応をした御船町役場山下さんと話し合う。Zoom を利用し，オンラインで熊本県御船町とつなぐこととした。（ICT の用については別紙参照。）児童には，端末を使ってメモをとってもよいこととした。

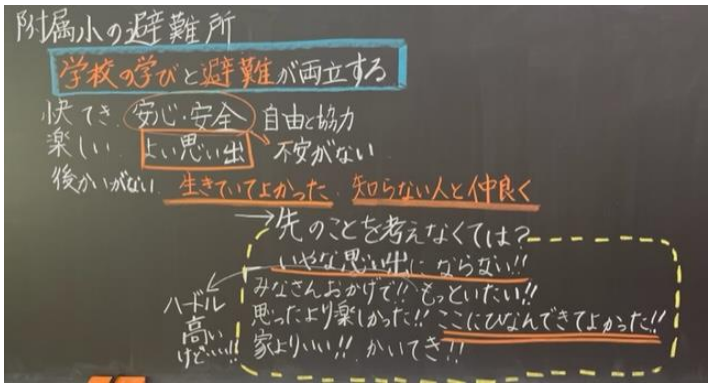
○山下さんと話し合ったことをまとめ，地域の人たちと交流する。Zoom を利用することで，大学の教室や地域の集会所，地域の方のご自宅を一度につなぐことができた。この交流会で，児童は地域の人々が避難所に対してどのように考えているのかを知った。

○山下さん，地域の人との Zoom 交流会の後，附属小学校をどんな避難所にしていくべきか話し合った。熊本地震の教訓から，学びと避難が両立する，ということが児童の願いとなった。

○熊本県御船町が作成したしおりをもとに，グループにわかれてしおりを作成する。

○しおりを作成する中で出てきた質問やアドバイスが欲しいことをまとめて，まとめの交流会を行う。

○千葉大学の防災担当の方を招き，しおり完成の発表会を行う。



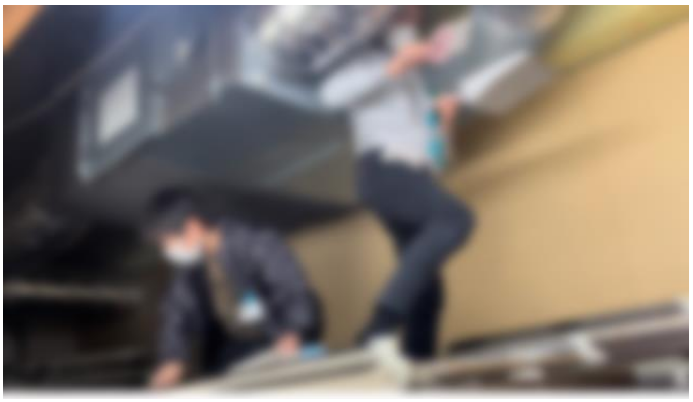

↑どのような避難所にしていくべきかを考えた授業板書

避難所の時間割

目次

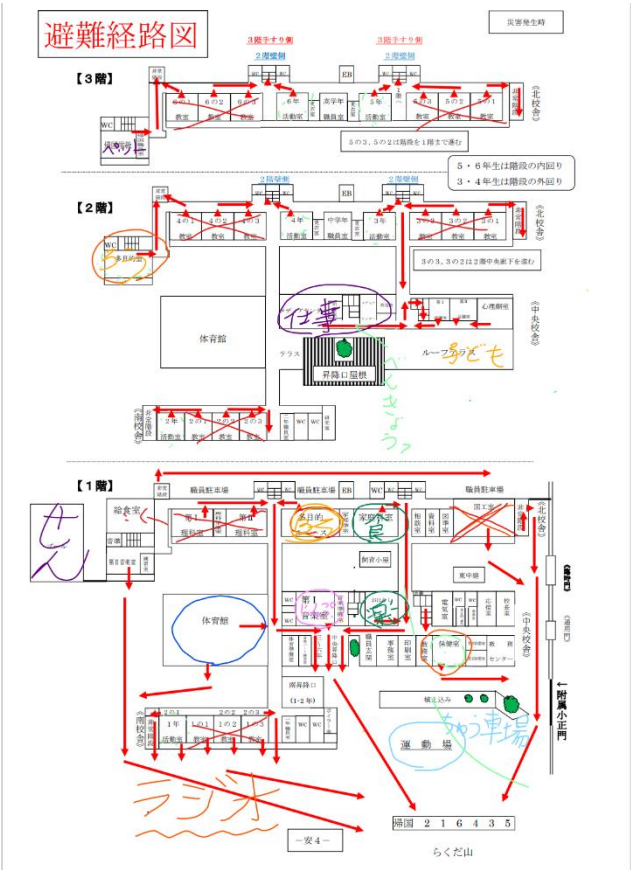
１ 体育館に移住している方の時間割
２ 赤ちゃんを連れて移住している方の時間割
３ 仕事をしている方の時間割
４ 勉強スペース・遊びスペースの時間割
５ 色々な説明
６ 係の人たちのもろもろ

↑時間割係が考えたしおりの目次

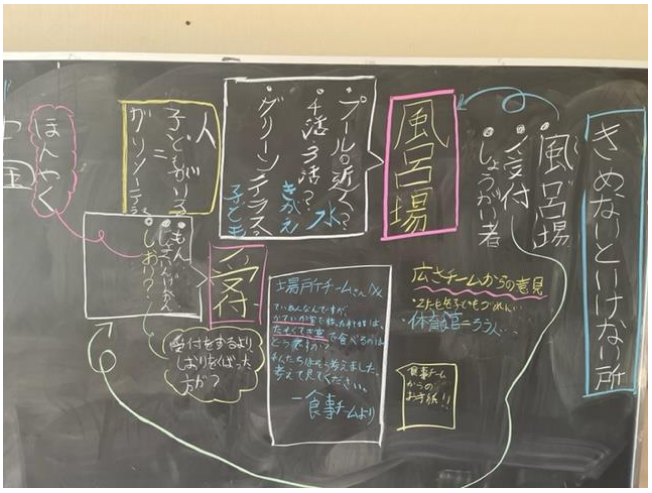


↑空いたスペースが着替えや授乳に使えるからと掃除を始めた児童

↑一人一台端末を利用して，資料を共有して作成




↑学ぶ場所と避難者が使う場所をふり分けた地図




↑多目的室の黒板を掲示板代わりにして情報を共有

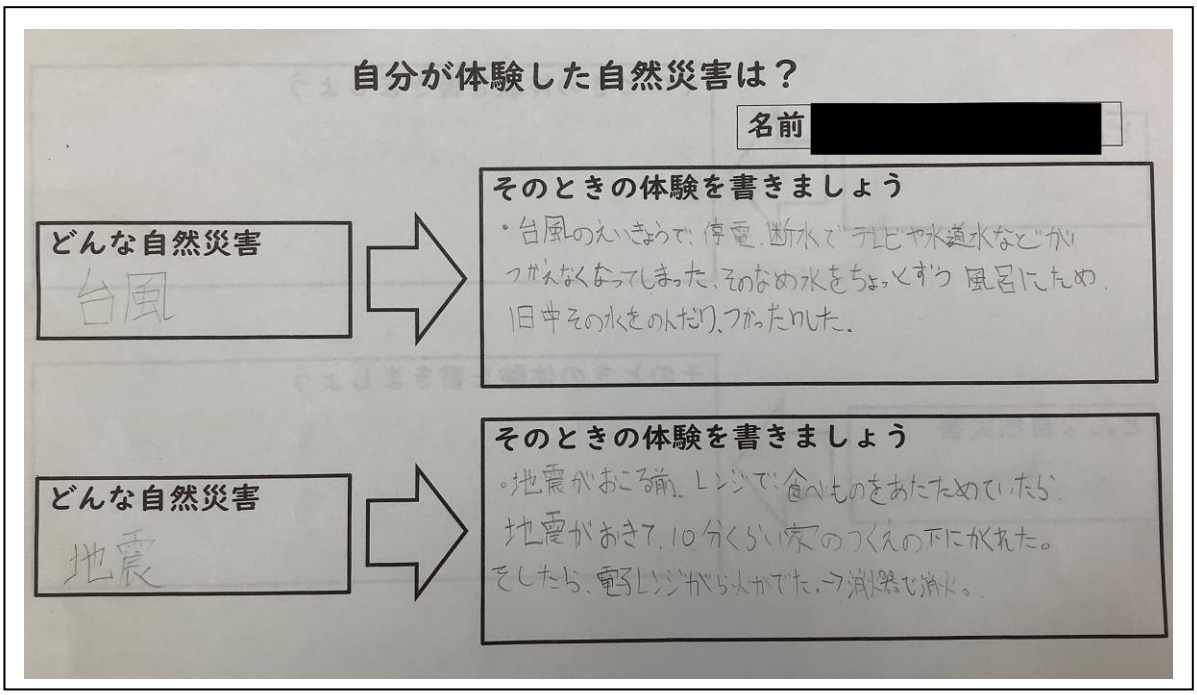
→千葉大学の防災担当者からしおりの総括をしていただく

【第５学年】

学習活動①　自然災害時における自身の経験を想起する

【総合「避難訓練を考えよう」１時間】

〇自分自身がこれまで経験した自然災害やその際の体験について想起する。
〇これまでに体験した自然災害や，被災した際の状況について友達と意見交換を行う。



自分が体験した自然災害は？

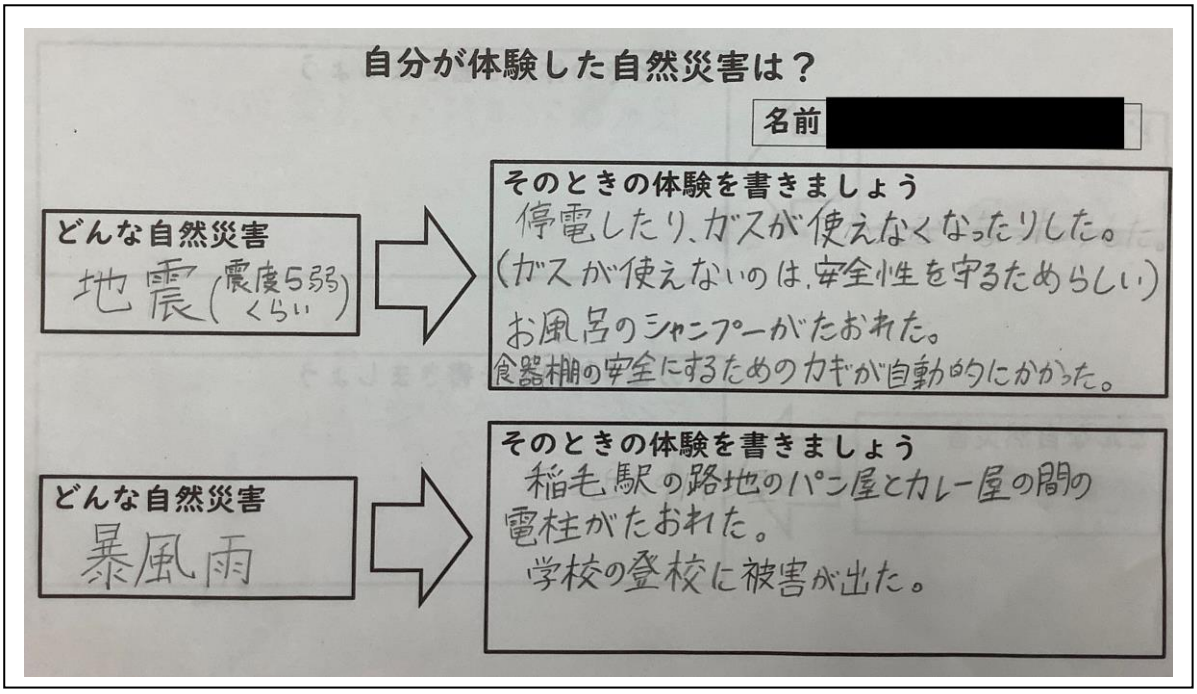
名前 [redacted]

どんな自然災害
台風

そのときの体験を書きましょう
・台風のえいきょうで、停電、断水でテレビや水道水などがつかえなくなってしまった。そのため水をちょっとずつ風呂にためて、日中その水をのんだり、つかったりした。

どんな自然災害
地震

そのときの体験を書きましょう
・地震がおこる前、レンジで食べものをあたためていたら、地震がおきて、10分くらい家のつくえの下にかくれた。そしたら、電子レンジから火がでた。→消火器で消火。



自分が体験した自然災害は？

名前 [redacted]

どんな自然災害
地震（震度5弱くらい）

そのときの体験を書きましょう
停電したり、ガスが使えなくなったりした。
（ガスが使えないのは、安全性を守るためらしい）
お風呂のシャンプーがたおれた。
食器棚の安全にするためのカギが自動的にかかった。

どんな自然災害
暴風雨

そのときの体験を書きましょう
稲毛駅の路地のパン屋とカレー屋の間の電柱がたおれた。
学校の登校に被害が出た。

学習活動②　日本で起きた自然災害や，その対策について理解する

【社会「自然災害を防ぐ」４時間】

〈１時　地震災害〉

〇地震が起きる場所や被害を減らすための対応について調べる。

〇それぞれが調べてきたことを共有し，理解する。

〈２時　津波災害〉

〇津波の発生原因や被害を減らすための対応について調べる。

〇それぞれが調べてきたことを共有し，理解する。

〈３時　風水害〉

〇風水害の発生条件や被害を減らすための対応について調べる。

〇それぞれが調べてきたことを共有し，理解する。

〈４時　火山の噴火や大雪〉

〇これまでに学習したもの以外に起こりうる自然災害を，国土の自然条件と関連付けて調べる。

〇それぞれが調べてきたことを共有し，理解する。

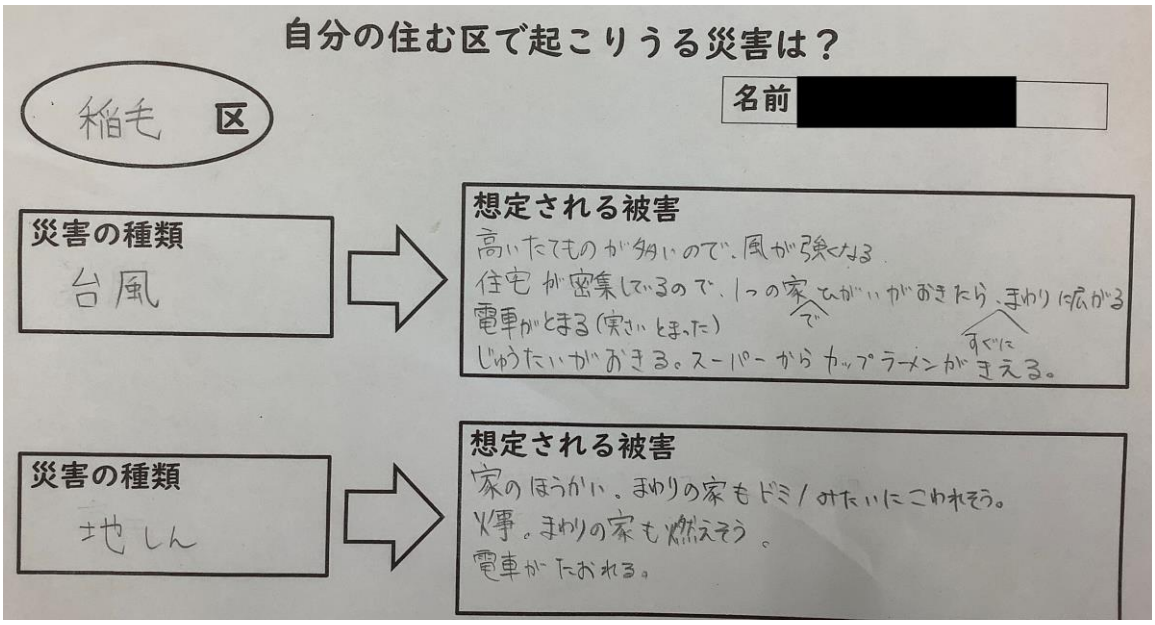
学習活動③　自分たちの区で起こる災害を想定し，避難訓練の計画を立てる

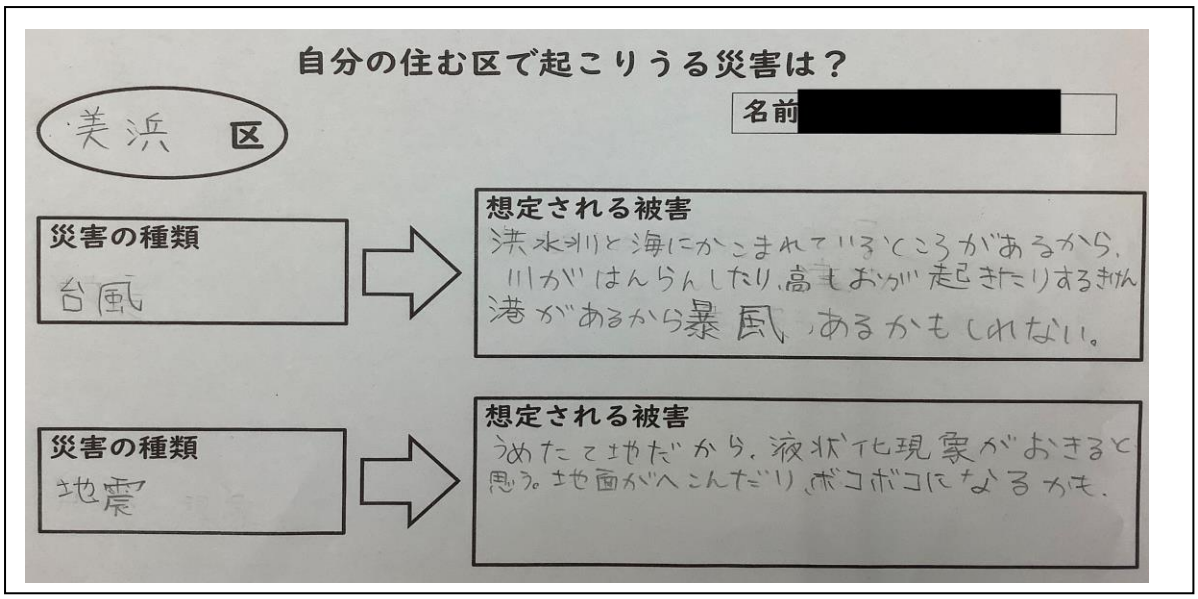
【社会「自然災害を防ぐ」７時間】

〈１時　自分の住む区で想定される自然災害は〉

〇これから大きな地震が起こることが予想されることを知り，自分たちに影響を及ぼす自然災害について考える。

〇出てきた意見を共有し，自分たちの区で起こりうる災害や想定される被害等について考える。





自分の住む区で起こりうる災害は？

美浜　区

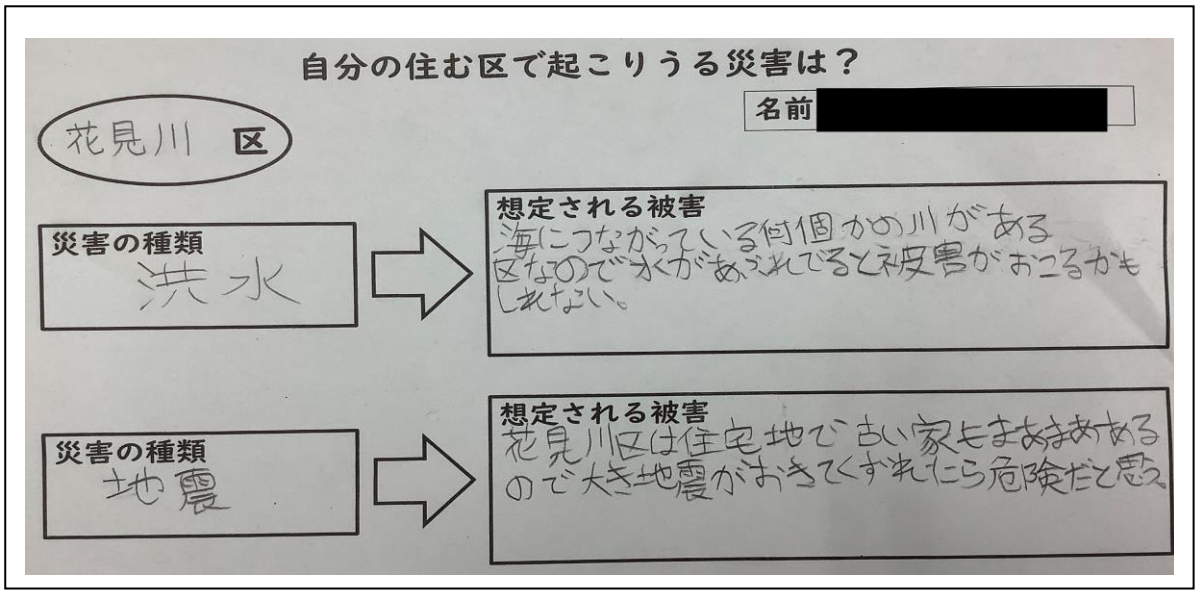
名前[redacted]

災害の種類
台風

想定される被害
洪水川と海にかこまれているところがあるから，川がはんらんしたり，高もおが起きたりするきけん港があるから暴風あるかもしれない。

災害の種類
地震

想定される被害
うめたて地だから，液状化現象がおきると思う。地面がへこんだり，ボコボコになるかも。



自分の住む区で起こりうる災害は？

花見川　区

名前[redacted]

災害の種類
洪水

想定される被害
海につながっている何個かの川がある区なので水があふれでると被害がおこるかもしれない。

災害の種類
地震

想定される被害
花見川区は住宅地で古い家もまあまああるので大きな地震がおきてくずれたら危険だと思う。

〈２時　地方公共団体の取り組み〉

〇想定される被害に対して，県や市，区がどのような対策をとっているか考える。

〇調べたことを共有する。

〈３時　自分たちにできることは〉

〇県（市）の防災担当に，自分たちの想定した被害と，その対策についてインタビューする。

〇県や市，区の対策だけでなく，自助や共助の大切さに気付き，何が求められるかを考える。

〈４・５・６時　避難訓練を考える〉

〇様々な自然災害や，それにより想定される被害を踏まえ，避難訓練の計画を考える。

〇同じ区の友達と共有し，情報を精査する。

〈７時　県や市，各区の防災担当に提案〉

〇作り上げた避難訓練の計画を発表する。

〇それぞれの担当者から，意見をもらう。

【様式２－５】

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（成果と課題）

【類型Ⅰ】

**実践校名:千葉大学教育学部附属小学校**

成　果

①本プログラムでは，児童が地域の具体的な課題を自分との関わりの中でとらえることができるように，児童が住む千葉市の防災計画で，今後想定されている災害として教訓的に位置づけられている，熊本地震を教材とした。実際に地震を経験し，避難生活を送った方のインタビュー記事や教室と被災地をつないで行った交流会によって児童は，自分の地域で，同じことが起こったら，と常に想像力を働かせながら，学習することができた。

②③本プログラムでは，自然災害への対応や備えとして，「自然災害時の避難所」を教材とし，「附属小を学びと避難が両立できる避難所にするには？」という課題を立てて，追究する活動を行った。成果①にあるように，被災地の経験を教訓的に学んだことで，はじめは「避難所は，家族がいれば大丈夫。」と発言していた児童が，避難所を利用する立場（高齢者が多い，外国人が住む地区がある，子どもの多い住宅地がある等）や避難所の在り方（場所，時間，食事等）を多角的多面的に考えることができるようになった。以下は，授業後の児童のふり返りである。

・家族がいてもいなくても不便なのは変わりないと思います。段ボールは狭いし、食べ物もないし、お風呂も入れないからとても不便だし大変だと思います。さらに今起きたらコロナで避難所が密になって感染者も増えていくので、今起きたらさらに大変だと思います。家族がいない高齢者の人とかは寂しいし倍で悲しいし大変だと思います。
・避難所生活はめちゃくちゃ大変だと思った。理由は自分ができることが自由じゃないから決められた時間に決められたことをやらないといけないだから大変だと思う。例えば風呂とかトイレとか（違うと思うけど）食事とかこういうのが制限されていると思うから。自分が休める時間がない寝る時もまた地震が来たらどうしようとか気が休まる時間がない。しかもこんなに大変なのに子供連れとか家族が多い人とかはめっちゃ大変だと思う。子供がやることに親がついていかないといけない。体が不自由な人も大変。
・避難所の生活はすっごく大変だと思います。なぜなら、障害者の方で、（耳が聞こえない・目が見えない）耳が聞こえない方だったりして、手話が出来る人がいなかったら、毎回、筆談とかでやってすごく大変だと思う。その他にも、高田さんの様に、子供がいる方だと、やっぱり、子供は、大人より我慢できないから、泣き出したり、して大変だと思う。
・カップラーメンとおにぎりだけじゃ、おなかもすぐにすいちゃうと思うし家族がいれば大丈夫な気がするけどでもやっぱり大変…、アレルギーの人とかも食事が選べないからどうしたらいいかもわからないし食べ物アレルギーだけじゃなくて動物アレルギーの人

も大変....しかも勝手に涙が出てくるほど

④本プログラムでは，教科等間の連携として，社会科学習の学びを自地域の課題に持ち込み総合的な学習の時間の探究活動につなげていけるよう，カリキュラムの連携をはかった。また，今回の学びをいかした形で，第４学年と第５学年の自然災害学習における系統をはかることができるよう，５年生のプログラムの検討を行った。このことで，社会科の学びを自地域の課題につなげるカリキュラム・マネジメントの一案を作成することができた。

⑤本プログラムでは，実社会との接点を「地域の大人」に求めることとした。また，地域の大人とどのようにつなげるか，を考えた時，講師としてご講演いただいた藤井千春先生から「「対話的な学び」は，お互いが共通して分かること，わかり合おうとするつまり，最適解の構築をめざしていく。それが対話的であるということである。友達に分かってもらいたい。わかってあげたい。助けたいという感情。そういうことを育て大切にしていくことで対話的な力が育っていく。」というお言葉をいただいた。そこで，児童が地域の大人を「共に，最適解の構築を目指す仲間」ととらえることができるよう，オンラインを活用し，学生や地域の人々と話をする機会を多く取り入れた。児童は，この活動により，地域に住む人々を「共に考え，課題をよりよい解決に導く人」ととらえることができた。以下は，出来上がったしおりの発表会について聞いた，児童のアンケートである。

・発表したいです！したほうがよいと思います。私たちはがんばってやっているけど，もっとたりないところとかをアドバイスをしてくれると思うからです。そういうことをいっぱい学んでこそ，さいこうの避難所になると思うから発表したいです。
・発表したほうがいいと思います。なぜなら，みなさんにいってそれをさんこうに避難所がもっと快適になると思ったからです。しかも，発表すれば，またアドバイスをもらえるかもしれないからです。

（取組の工夫）

○　オンラインを活用し，教室と外部を積極的につなぐ。
○　社会科の学び（千葉市の防災基本計画）を総合的な学習の時間の探究活動（熊本地震の経験を教訓的に学び，地域の避難所の課題）につなげる。

（他地域でも参考となると考えられる点）

○　自然災害発生時の「避難所」はどの地域でも必要なものである。また，地域の学校「避難所」として指定されていることも多い。実際に，学校が避難所になった時，地域の人や市役所の人以上に児童の方が校内のことをよく知っていて，助けになった，という話もある。自分たちの学校である「避難所」を教材とすることは，よりよい社会を創る担い手としての児童を育成する一助となる。
○　コロナウィルス感染症の拡大により，児童が校外に出かけたり，学校に外部の方を呼んだりすることが難しくなっている。そこで，オンラインを活用することにより，いつでもどこにいても外部とつながることが可能である。

## 課　題

○本年度はカリキュラムを開発することが中心になり，児童の活動の見取りが十分に行えなかった。また，コロナウィルス感染症の感染拡大により，学生の補助員が校内に入ることが難しかったため，授業記録やアンケート調査などを十分に行うことができなかった。次年度は，開発したプログラムで児童に育成される資質・能力を明らかにしたい。

○本年度は，社会科と総合的な学習の時間を連携させてプログラムを組んだ。次年度は理科や特別活動においても自然災害や防災教育という視点で連携の可能性を考え，位置づける必要がある。

○防災教育における実践例や先行研究についての見識が足りていない。来年度は，定期的に学習会などを設けるようにする。